

練学歯だより

No.25

練馬区学校歯科医会広報

<http://www.nerigakushi.tokyo>

2020年3月発行

目次

- p.1 …… ご挨拶
練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
- p.2 …… ミルキンの特徴と操作使用について
西 克昌
- p.3 …… 令和元年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」
山室 直子
- p.4 …… 令和元年度練馬区学校歯科医会会員研修会
浅見 律
第70回関東甲信越静学校保健大会および歯科職域部会
草柳 英二
- p.5 …… 第83回全国学校保健研修大会 in 山口
豊玉第2小学校 古田 裕司
都立田柄高等学校 水野 重美
- p.8 …… 令和元年度全国学校保健安全研究大会
古田 裕司
- p.9 …… 令和元年度練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会
佐藤 和典
- p.10 …… 第38回練馬区学校保健大会 名古屋 昌宏
- p.11 …… 学校紹介
開新第1小学校 浅見 律
石神井中学校 宮本 一世
- p.13 …… 新入会員の声
関町小学校 大河内 誠
- p.14 …… 望月兵衛前練学歯会会長を偲んで
草柳 英二
佐藤 貞彦
渡辺 亨

会長挨拶

練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二

令和元年度教育委員会・学校長会・学校歯科医会と日頃より、練馬区歯科医師会の先生方には、本会にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和元年にふさわしく喜ばしい事柄からお話致します。本年度令和元年春の叙勲に際し、本会会員が受賞されました、まことに喜ばしい限りでございます。御先生は、約35年間の長期にわたり、練馬区の児童・生徒の歯と口の健診事業に貢献した功績の成果であります。まさに、練馬区学校歯科医会の歴史を物語っております。

練馬区学校歯科医会は、昭和30年過ぎからムシ歯半減運動を練馬区長と練馬区学校歯科医会会長とで始め、現在に至っております。古い組織である練学歯は、創立が昭和30年であり、令和元年の今年で65年の歴史を有することになります。歴史の記録は、組織にとりあらゆる時点で必要不可欠であります。

本会の記録を辿りますと、故西蓮寺会長執行部が昭和54年に「練馬区学校歯科医会三十年の歩み」を発刊し、また平成5年に「練学歯45年史」を前回同様に発刊しております。しかし、平成4年以降平成30年の昨年度まで27年間の記録が、まったく残されておられません。この度、歴史の足跡を絶やさないために現執行部は、平成4年から昨年度までの記録を後世に残すために、本年8月から「練学歯65年記録誌」作成委員会(5名)を立ち上げ、事業をスタートさせました。約1年から2年間ほどの期間がかかりますが、発刊したいと考えております。

昭和・平成そして令和の練馬区学校歯科医会事業は、一貫してムシ歯半減運動であり、改称した現在「練馬区児童・生徒の歯と口の健康推進事業」であります。本年も児童・生徒の春・秋歯科健康診断を中心に、給食後の歯みがき推進事業、その一環として昨年度・本年度と2年間に区内の小・中学校へ、毎年約3800本の歯ブラシの寄贈をさせていただきました。また、ムシ歯予防としてフッ化物洗口法を数年前より推奨しております。本年度、学術委員会は、学校関係者・学校歯科医・父兄等にわかりやすい、フッ化物洗口パンフレット作成に取り組んでおります。練馬区学校歯科医会は、将来にむけ、区内の児童・生徒の歯と口の健康推進事業に対し邁進してまいります。

今後とも、練馬区学校歯科医会事業にご理解とご協力をお願い申し上げます。



mil-kin(見る菌)の特徴と操作使用について

西 克昌

練馬区学校歯科医会ではバクテリア・セルチェッカー mil-kin(見る菌)を購入しました。試料ステージにプラークを載せてスマートフォンで動画や静止画が撮影できます。またモニターに繋げて大画面に写すことも出来ますので、学校での歯科講話や歯みがき指導にも利用できます。

【使用方法は簡単】



レンズに水を1滴垂らす。カバーガラスを載せる。プラークを載せる。

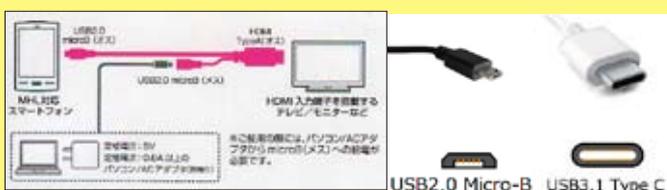
これだけでスマホに画像が表示されプラークの細菌が観察できます。



モニターに表示するにはアダプターなどが必要になってきます。

iPhoneの場合、iPhone用のアダプターと電源コードとHDMI端子です。

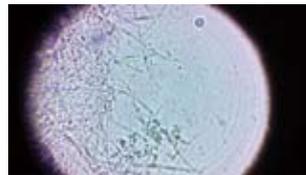
Androidの場合も専用のアダプター、電源コード、HDMIコードなのですが、接続端子の形が台形のMicro-Bの端子のみ使用可能で、Type CのAndroidはコードを直接繋いで画像を表示する機能がないようです。Type Cはモニターに無線のアダプターを付けてWi-Fiで送って画像を表示させます。



スマホに電源コードとHDMI端子を付けたところ。

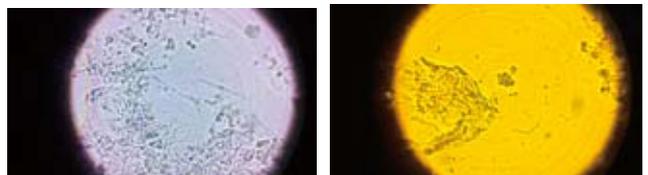


スマホの画像がモニターに表示されています。

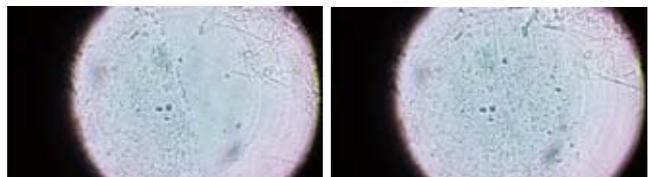


mil-kinで撮った画像ですが、位相差顕微鏡と比べると多少輪郭のはっきりしない

部分もありますが、その外形や動きは十分に観察できます。そして何よりかさばらないので、どこへでも持ち運びが可能です。学校での歯科講話や歯みがき指導のほか、先生方の研修会、患者さんのモチベーションアップなど様々なところでの活用が期待できます。



これは左の画像にイソジンうがい薬を1滴垂らして右の画像になったところです。動画ではないのでわかりにくいですが、動いていた細菌が一瞬にして動かなくなりました。



これはプラークの左にペリオフィル(ミノサイクリン塩酸塩)を置いてみたところ細菌が徐々に死滅していく画像です。左の画像では死んだ細菌が左半分には積層していますが、時間と共に画面全体を覆うようになりました。

この様に動画ですので様々な細菌の変化をも観察、記録が出来ます。学校現場でもこのmil-kinの可能性はまだまだあると思われるので、ぜひ使用してみてください。



令和元年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」

山室 直子

時折激しい雨が降る中、令和元年6月22日午後練馬区役所本庁舎地下にて練馬区・練馬区歯科医師会主催により今年で34回目となる「練馬区よい歯・よい子のつどい2019」が開催されました。まずは、公務多忙の前川耀男区長に代わり山内隆男副区長が、「健康なからだは健康な歯からとも言われように何でもおいしくよくかんで食べるには歯は必要不可欠であること」に触れた区長からのお祝いメッセージが披露されました。公益社団法人練馬区歯科医師会の斎藤良造会長より、「450点の応募があった歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクールは今年も力作揃いでありました」と述べられました。歯一トファミリーコンクールは最優秀賞1組、優秀賞4組、歯一トファミリー賞15組が表彰されました。これは、昨年度の3歳児歯科健診でむし歯のないお子様とそのご家族が対象で、応募のあったご家族の中から審査の結果選ばれた方々です。むし歯がないのはもちろんのこと、歯並びや歯肉の状態までが審査されます。毎日の家庭でのケア、定期的なかかりつけ歯科医院の受診、甘いものを控えるなど気を付けていらっしゃるようでした。

歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクールは、図画が小学校1年生から3年生、ポスターが小学校4年生から6年生です。図画は特賞1名、優秀賞4名、歯科医師会賞5名、ポスターは特賞1名、優秀賞4名、歯科医師会賞6名。今年は特別支援学級からの応募もあり特賞1名、優秀賞2名が選ばれました。作品は練馬区学校歯科医会のHPでご覧になることができます。

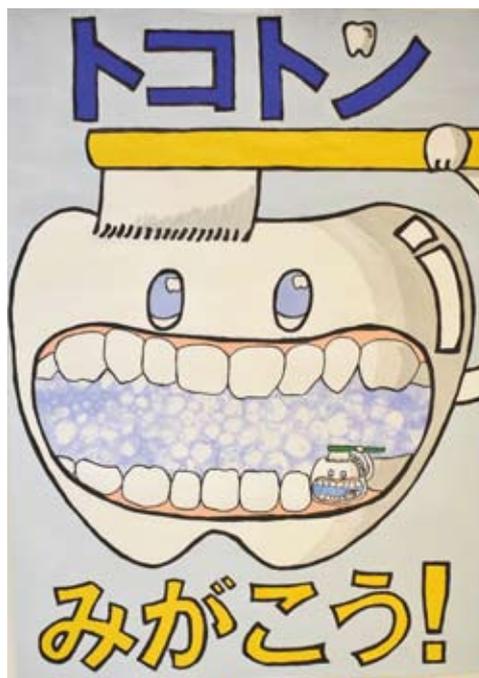
最後は、ネリ丸くんとのお記念撮影やバルンアートと皆さん受賞の喜びを分かち合っていました。



式典



表彰



2019 ポスターコンクール

令和元年度練馬区学校歯科医会会員研修会

学術HP担当理事 浅見 律

令和元年10月24日(木)午後7時より練馬区歯科医師会館3F大会議室において会員研修会が開催されました。

講師は東京歯科大学名誉教授 社会歯科学研究室 眞木 吉信 先生にご講演をいただき、演題は「歯と口の健康とフッ化物の利用」です。講演に先立ち、株式会社サンスター歯科営業部の大津様よりフッ化物洗口についての商品説明がありましたが、商品と講演内容がタイムリーに一致したプロモーション内容でした。

前半の講演は、日本ではフッ素に対して8割方は否定的な評価であり、雑誌などのマスメディアでは、科学的根拠の無い情報がまかり通っているということでした。歯磨剤のフッ化ナトリウム濃度が最近になって1500ppmになった裏話など、時間を忘れるほどに興味深いお話が盛りだくさんでした。

後半では、むし歯予防におけるフッ化物の効果をデータに基づいた説明を行い、フッ化物の使用の中でも、洗口が最も予防効果が高く、また回数や量よりも濃度に依存するということでした。フッ化物の応用は日常の臨床からは効果が見えにくいいため、正しいエビデンスに基づいた情報が必要となりますが、今回の公演はこれから必要になる予防歯科に大変役に立つ有意義な内容でありました。



演者の眞木先生

第70回関東甲信越静学校保健大会および歯科職域部会

会長 草柳 英二

第70回関東甲信越静学校保健大会歯科職域部会は、令和元年8月1日(木)15時30分より新潟市のアートホテル新潟駅前で開催されました。

特別講演「学校歯科保健活動—新潟県における取り組みからの検討」の演題で新潟大学大学院医歯学総合研究科あし原明宏教授による講演を拝聴しました。

公診連携を重要視し、49年前よりフッ化物洗口実施し、新潟県歯科保健推進条例を作成し実施、19年間・日本一むし歯の少ない県で有名となりました。

また8月2日朱鷺メッセで大会が開催され、班別研究協議会において「生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくり」の課題が協議されました。

第83回 全国学校歯科保健研究大会に参加して

豊玉第2小学校 古田 裕司

令和元年 10月17日木曜日 18日金曜日の2日間にわたり第83回全国学校歯科保健研究大会が山口市にて開催されました。

練馬区学校歯科医会からは、草柳英二会長と中田郁平監事と水野重美会員と古田裕司理事が参加いたしました。

また、東京都学校歯科医会理事として山室直子会員が、学術委員として金田和彦会員が参加されました。

1日目は、山口市民ホールにおいて開会式と表彰式が行われました。

開会式では、文部科学大臣代理、日本学校歯科医会川本強会長、山口県歯科医師会小山茂幸会長をはじめ、たくさんのご来賓の先生方から挨拶がありました。

表彰式では、文部科学大臣賞をはじめ、学校保健に功労がありました先生方の表彰が行われました。

その後、「教育に科学的根拠を」という演題で、慶応義塾大学総合政策学部教授中室牧子先生による講演がありました。

午後7時からは、場所を湯田温泉のホテルかめ福に移し懇親会が行われました。

2日目も市民会館にて領域別研究協議会が行われました。

小学校部会は大ホールにて、コメンテーターに鶴見大学歯学部小児歯科学講座主任教授朝田芳信先生と、アドバイザーに日本大学歯学部歯学科衛生学講座教授川戸貫行先生をお招きして、小学校の養護教諭の研究発表をもとに活発な討議が行われました。

来年の全国学校歯科保健研究大会は、福井市にて行われる予定です。



第83回 全国学校歯科保健研究大会に参加して

都立田柄高等学校 水野 重美

令和元年 10月 17日、18日と二日間にわたり山口県山口市の市民会館・ホテルかめ福にて大会が行われました。

一週間前には台風 19号が東北から関東甲信越の広範囲に河川の氾濫、水害をもたらした。大会当日も天気は不良。数年前の中国地方での水害の事が頭を掠めた。雨模様の羽田空港を飛び立ち山口宇部空港に到着。

元号も令和と新しくなり、人生も百年時代と云われてきた。これから長い人生をどのように口腔内環境を良くして対応できるようにしていかなければならないかという時代に入ってきているようだ。

今回の大会の主題も『生きる力』をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指してと云うものでした。これからの子供達が百年という人生を健康で活力のある自律的な健康づくりの習慣を身につけていくように、学齢期にヘルスプロモーションの礎を培うことが大切な事であるとの事でした。

10月 17日、大会 1日目は 12時 30分から行われ、防府市立桑山中学校吹奏楽部の演奏から始まり、山口県歯科医師会副会長の下村明生先生の開会宣言を行い、主催者挨拶、来賓祝辞等があり、第 58回 全日本学校歯科保健優良校の表彰などがあり閉会、表彰式が終了。

14時 15分より特別講演・慶応義塾大学総合政策学部教授の中室牧子先生の「教育に科学的根拠を」というテーマで講演がありました。中室先生は、時々TVにも出演しているそうです。「教育経済学」が専門との事で、講演の内容も興味深いものがありました。サラッと聞くには少しむずかしく思えました。教育経済学と云われてもピンときませんが、幼い頃の教育が将来どのように影響してきて収入の面で大きな差が出来るというような事でした。幼い頃にどんなにIQ・認知能力が高くても、成長するに従って次第にかわらなくなってくるが、非認知能力を培うと将来的に成功する事が多いとの事でした。非認知能力を育成するには学校生活、学校教育が優れているとの事でした。色々な例を出しての講演でした。

15時 50分よりシンポジウムでした。

テーマが「学習指導要領改訂に伴う学校歯科保健における主体的・対話的で深い学びの実現」というものでした。

基調講演を大阪大学大学院歯学研究科、口腔分子免疫制御学講座予防歯科学教授の天野敦雄先生 でした。「生き抜く力を育む」という理念の具体化には「生きて働く知識、技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力、人間性の育成」を偏りなく実現することだそうです。学校で学んだことが子供たちの生きる力となって欲しいとの事でした。

シンポジストとして文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課、健康教育調査官 横嶋 剛先生、大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校 主務養護教諭 花村 亜由先生、公益社団法人山口県 歯科医師会会長 小山茂幸先生方の発表がありました。

学習指導要領は、小学校では令和2年度より、中学校では令和3年度、高等学校では令和4年度から新しく全面実施となるそうです。歯科保健に関してはそれ程かわっていないが、細かいところではこれまで以上に健康に関する内容が協調されているとの事です。

花村先生は、望ましい生活習慣の形成をめざした歯・口の健康づくりと校種間連携に関して発表して頂きました。

小山先生は、山口県における学校歯科保健の取組方を丁寧に発表して頂きました。食育に対する取組も発表されました。

1日目は以上で終了。

2日目は10時から、職域に分かれて各会場にておこなわれました。

その後、大会宣言、閉会宣言を山口県歯科医師会副会長 松浦尚志が行い無事に閉会となりました。有意義な2日間を過ごしました。

ホテルかめ福があるのは湯田温泉という町で、中原中也の生誕の地であり、町のところどころに足湯があり静かな町でした。来年は福井県が当番だそうです。

令和2年10月8日(木)、9日(金)の予定です。



古田 裕司

11月21日22日の両日埼玉県さいたま市ソニックシティにおいて令和元年度全国学校保健・安全研究大会が、また21日には第69回全国学校歯科医協議会が、パレスホテル大宮にて開催されました。

全国学校保健・安全研究大会では、開会式・表彰式の後、記念公演として埼玉大学教育学部戸辺英之教授による演題「子供のインターネット利用と健康」で行なわれた。

埼玉県学校保健会では以前よりインターネットの利用実態や健康・安全との関連、および、意識等についての調査をおこなっていました。この取組をもとにした内容です。埼玉県学校保健会では、調査報告書とともに活用事例集を作成して県内の公立学校に発信したそうです。

2日目は課題別研究協議会が開かれ次の3校の発表がありました。神奈川県立茅ヶ崎養護学校 栃木県宇都宮市立鬼怒中学校 埼玉県羽生市立新郷第学校です。3校の発表に共通していることは、歯、口の健康づくりは、学校、家庭、地域、関係機関との連携を深めていくことが必要であると、述べられています。

また、第69回全国学校歯科医協議会では、講師東京歯科大学口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室武田友孝教授による演題「マウスガードの有効性とよりゆう安全性の高いマウスガード」の講演がおこなわれました

ご存知のとおりコンタクトスポーツでは、マウスガード装着は義務化されています。カスタムメイドタイプであっても、選手一人一人の口腔状態、競技レベルに適したマウスガードが提供されているとは言えないとのことです。現在は安全性の高いマウスガードとして「ハード&スペースタイプマウスガード」があるとのことです。

講演後、立正大学ラグビー部監督堀越正巳氏を加えて、「マウスガードをより広く普及させるには」との演題でシンポジウムが開催されました。



全国学校歯科医協議会の様子



令和元年度 練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会

佐藤 和典

練馬区立小学校長、中学校長との研修協議会が、練馬区教育委員会の方々の出席のもと9月26日(木)及び10月10日(木)の両日に開催されました。

この会は、教育委員会、学校長と学校歯科医が直接懇親することで、活発な意見交換を行い、お互いの信頼関係を強化し、今後の学校歯科保健の向上に役立てる有意義な会で、昭和57年から開催されており都内では練馬区学校歯科医会のみが行われています。

昨年度から、「歯と口の健康推進事業」の一環として区内の小・中学校に歯ブラシの贈呈が行われることとなり、本年度も約3800本が寄贈され、当日贈呈式が行われた。

小学校長、中学校長との研修会では

演題1 「ミルクンの特徴と操作使用に関して事」

練馬区学校歯科医会 総務担当 西 克昌 理事

以上の講演が開催され、参加者の研修が行われました。



演者の西 理事



講演の様子



挨拶する中学校長会会長の新村紀昭先生



懇談中の先生方

第38回練馬区学校保健大会

名古屋 昌宏

令和元年12月5日木曜日の午後1時30分より、練馬文化センター小ホールにおいて、令和元年度練馬区学校保健大会が開催されました。

大会は、練馬区立練馬中学校長の熊野真司先生の司会で始まり、各方面からご挨拶や祝辞をいただきました。

学校保健関係表彰受賞者紹介では、叙勲の栄誉をうけた北町小学校学校歯科医の中田郁平先生、練馬区民表彰の泉新小学校学校歯科医の金田和彦先生と、小竹学校学校歯科医の荒川桂一先生と上石神井北小学校学校歯科医の須賀勉先生と上石神井小学校学校歯科医の山崎武雄先生と北町中学校学校歯科医の山田茂幸先生が紹介されました。

研究発表では、練馬区学校医部会の歌橋和哉先生が「タバコ対策について～練馬区医師会の取組も含め」を発表されました。

特別講演では、東京女子医科大学がんセンター長の林和彦先生が「今、学校で始まる『がん教育』」の演題で講演され、演者紹介は練馬区学校保健会副会長で練馬区学校歯科医会会長の草柳英二先生がされました。

今後、児童生徒へのがん教育は必要であると感じられました。

他にも練馬区学校歯科医会からは運営に多くの先生が参加され大変有意義な会でした。



会場風景



表彰を受ける中田・金田 両会員



学校紹介

練馬区立開進第一小学校



練馬区立開進第一小学校は明治15年4月、開進小学校として開校いたしました。学校名の由来は、明治以来の教育目標である『開智』と『進徳』からで、“智を開き以て徳を進む”という意味だそうです。本校の地名も下練馬村、重現から練馬区仲町、平和台と変化していきました。校門脇に埼玉道の石碑があり、東京から埼玉県への街道沿いに建てられています。校門を入るとすぐ右手に区内で3番目に大きいと言われているクスノキがそびえるのが歴史を感じさせます。

開進地区の小学校は本校からの独立移行で開進第四小学校まであります。現在の児童生徒数は650名ほど在籍していますが、子供の多い時代には千名を超えていたこともあったそうです。

地元の古くからの住民の多くは本校出身で、私の祖父や父も本校出身です。私は開進第四小学校出身ですが、歯科校医となったことから、不思議な縁を感じています。

本校の教育目標は、「一ともに生きる― かしこい子 やさしい子 たくましい子」ということですが、学校歯科医としましては、「健康で・・・」という文字を追加して欲しいところです。

児童の健康のための給食後の歯みがきやフッ化物洗口など、まだまだやり残していることが沢山ありますのでこれからの課題にしたいところです。

学校歯科医 浅見 律





学校紹介

練馬区立石神井中学校



練馬区立石神井中学校は、平成 29 年に学校創立 70 周年を迎えた歴史のある学校です。地域では、石中(しゃくちゅう)の呼び名で親しまれています。昭和 22 年に石神井小学校の敷地内に開校し、昭和 24 年に現在の地に校舎を新築、移転しました。北側の富士街道に面して建ち、南には石神井川と石神井公園、西には区立松の風文化公園の緑が広がっており、自然に恵まれた環境にあります。また、近くには石神井図書館や「石神井公園ふるさと文化館」などの文教施設もあり、自然と文化の共存した風土が根付いています。このような地域の環境が、生徒数 615 名(令和元年度)で区内で 3 番目に多い大型校にも関わらず、落ち着いた校風を醸成する一因となっているように感じています。

生徒はみな礼儀正しく、健診では「お願いします」、「ありがとうございます」、また廊下ですれ違えば、「こんにちは」、「おはようございます」と必ず挨拶をしてくれます。口腔内の状態も良好な生徒がほとんどで、生徒の皆さんの様子からは、山根浩孝校長はじめとする教職員の方々、PTA や地域の方々が一体となって生徒を見守り育てていることが伝わってきます。

歯科保健活動に関しては、養護主任の三崎暁美先生にとっても熱心に取り組んでいただいております。先生の指導のもと、毎年保健委員会で、健康管理をテーマにした生徒向けのストーリー仕立てのプロモーションビデオを製作しており、口腔衛生のテーマの時には、私も校医として参加させていただきました。また、去年は 6 月と 11 月に「給食後の歯みがき週間」を全校で実施しました。スタンプラリーを実施するなどの工夫が施され、皆楽しそうに取り組んでいました。通年実施するには施設面の問題などいくつかのハードルがありますが、今後も引き続き検討していきたいと考えております。

最後に石中の給食をご紹介します。給食はすべて校内で調理されており、和食中心のメニューには栄養士の町野忠彦さんの生徒の健康への思いが込められています。当初は食べられないメニューへの戸惑いもあったそうですが、今ではお昼の楽しみとなり、生徒の健康維持増進の源となっているようです。

学校歯科医 宮本一世



平成31年度より練学歯会長・草柳先生から学校歯科医のお話を頂き、藤田哲郎先生の後任として、関町小学校に就任致しました。多くの子供達を診る立場になり、責任の重さを感じております。



自分が小学校の歯科校医をやるのかと緊張しながら、校門を入り校庭が目に入ってきますと、小学校は違いますが、大泉南小で過ごした小学校時代が思い出されてきます。

当時は、虫歯があると歯の優良バッジはもらえなかったもので、歯医者の子である自分が、「もし歯の優良バッジをもらえないと恥ずかしいな」と、子ども心に思っていたことが思い出されます。

健診時、関町小学校の子ども達は、きちんと協力してくれます。数人だけが自由奔放というか、初めて目止まる行動をとっています。(そういう私も、常識が通用せず、全く理解出来ないとよく言われてしまっていますが・・・)

年齢層が幅広い小学生。乳歯と永久歯の混在、成長発育の違いで同学年でも萌出歯牙の違いがあり、戸惑います。

これからこの子達が高齢者になっても健康でいられる為には、“いつまでも自分の歯で噛める”ことが大事です。その為には、これから大きな成長を伴う小学校時代での、顎・口腔系の正常な機能と発育が不可欠と考えます。

齲蝕予防に関しては、低学年では保護者による仕上げ磨き、高学年になるにしたがっては生活習慣。また、歯科医院での定期的管理が効果的で、発育経過もおのずと見ていけるということを伝えていきたいです。

外傷受傷時に関しては、その対応について伝えていきたいです。

これらのことなどを、年齢層が幅広い小学生と触れ合う限られた時間の中で、分かりやすく伝えるにはどうしたらよいのか、加園校長先生、養護教諭の益子先生ほか諸先生の協力を頂きながら、取り組んで参りたいと思います。

ご指導の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

弔 辞

草柳 英二

私、練馬区学校歯科医会を代表といたしまして、故望月兵衛先生のご霊前に謹んで哀悼の意を表します。

この度の先生の悲報、ただただ信じられませんでした。12/12(木)に練馬区教育委員会との協議会、そして12/14(土)には練馬歯科医師会役員忘年会と、2日間共に一緒の会合で、先生は元会長としてしっかり挨拶をなされ、また先生と私達は、楽しく長時間にわたりお話させていただきました。とてもお元気で普段通りの望月先生そのままでした。われわれは安心しておりましたのに、本当に残念でなりません。

振り返りますと、亡くなられた西連寺愛典先生の愛弟子として、日本学校歯科医会・東京都学校歯科医会の役員を歴任なされ、また練馬区学校歯科医会の会長として長期にわたり組織を確立なされました。今の練馬区学校歯科医会は、そのまま継承されております。また、優れた学校歯科医指導者として、後輩の育成に尽力をつくされ、多くの優秀な学校歯科医が誕生し、今現在しっかりと活躍しております。

特に学術面においては、指導力を全面的に発揮なされ、多くの調査・研究等の実績を残されました。練馬区学校歯科医会は、本年度に教育委員会と協力し、来年春の叙勲の手続きをすでに完了しておりましたのに、受章に間に合わず無念でなりません。

先生は、練馬区の児童・生徒の学校歯科保健に大きな業績を残し、多くの方々から親愛と信頼をよせられておられました。私達後輩は、先生の遺志をついで練馬区学校歯科医会を堅持・継承して行くことが使命と存じております。練馬区学校歯科医会は、今後、先生のご指導を糧として練馬区児童・生徒の学校歯科保健活動に尽力を注いで参りますので、どうかご安心下さるよう、また上の方からしっかりと見守り下さるようお願い致します。

残念ですが、先生のご指導、おしゃれなゴルフスタイル、またお酒を酌み交わすことも叶わず悔しい限りです。まだ先生と永久のお別れをしたくありませんが、しなければなりませんでしょうか。先生を知るすべての方々と同じ思いであると思います。まさに、ご家族の皆様のご愁傷は如何ばかりかと、お拝察申し上げます。

最後に、先生の御霊がご遺族の更なるご繁栄をお守り下さいますと共に、練馬区学校歯科医会の前途をお導きくださいますようお願い申し上げます。

先生のご冥福を心からお祈りし、弔意を表するしだいです。
望月兵衛先生、本当にありがとうございました。安らかに眠り下さい。

学校歯科保健の泰斗 望月兵衛先生を偲んで

佐藤 貞彦

「練学歯(練馬区学校歯科医会の略称)も結構忙しくて大変なんだよ」。

望月先生が練学歯会長の時、私が初めて練学歯副会長として役員に参加した時に言われました。

平成17年の事でした。私は昭和41年に練馬区歯科医師会入会、昭和49年に区立大泉北小学校の歯科校医になっていたので練学歯の事は大体分かっていたつもりでした。当時の学校歯科医の仕事は年に一回の春の健診だけで、それでいて或る程度の報酬があるせいか、学校歯科医になる希望者が多くどんな人選をしているのだとかの会員の声がありました。また大阪地方のある地区ではこの年一回の健診での報酬が議会で問題になったこともありました。

望月先生は昭和42年日本大学歯学部を卒業されると小児歯科学教室で3年間程助手を務め、昭和45年歯科医院開設、歯科医師会入会し同53年に区立大泉第一小学校学校歯科医に就任、その間も大学の教室で研鑽を重ね歯学博士学位を取得し大学歯学部の兼任講師となり、日本小児歯科学会認定医となりました。

同56年練学歯理事になられてからは都学歯学術委員、日学歯理事や常務理事、或は代表会員、都学歯の評議員会や総会の議長は12年間の長きにわたり務められ、高い指導力と協調性を発揮された。

望月先生は学校歯科保健をライフワークとして情熱を傾注していたと私は先生とのお付き合い中で確信しております。

都内は勿論のこと、全国規模での大会にも殆んど出席して学校歯科医の資質向上と児童生徒の歯科保健衛生向上に大きく貢献しました。

温厚で真面目な性格、この春には叙勲を受ける予定と聞いておりますが。

本当に惜しい先生を亡くし此の上なく残念です。



望月兵衛先生との思い出

渡辺 亨

令和元年12月17日(火)望月先生が、ご逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

私は、昭和53年(1978年)に練馬区歯科医師会に入会しました。望月先生と同じ大泉ブロックで開業した縁で、最初にご挨拶にお伺いしたのが、日大同窓の望月先生でした。全く、面識がないにもかかわらず、同窓と云うだけでお話をさせて頂き10年先輩との事でした。当時、望月先生36歳、俳優、竹脇無我に似た青年歯科医でカッコ良かった。

それからは、大泉ブロックの会合に、一緒に連れて行って頂いて、ブロックの皆様を紹介して下さい、大変、助かった事を覚えています。望月先生は、ゴルフが大変お上手で私をゴルフに連れて行って下さいました。取手国際GC、下仁田CC、久邇CC等、望月先生と奥様、私、私の家内の4人で行き、楽しい思い出です。数年前、「体調が良くなったら又、ゴルフしましょう。」と話しておりましたが、叶わず残念です。

日大同窓では、望月専務、渡辺庶務又は、会計でお世話になりました。

平成7年～平成11年迄望月先生は、練馬区歯科医師会、西連寺執行部の専務となり、私は庶務を拝命しました。2期4年間は濃密な時間で一週間の内、三日位は一緒にいました。良くお酒を飲み、良く話しました。

望月先生の素晴らしさを思い知らされたのは、この時期かも知れません。文章を書いても、話しをしても、素晴らしかった。

平成13年から望月先生は、練馬区学校歯科医会の会長に就任します。その時は、望月会長、渡辺庶務。その後、望月先生は練歯会長を2期4年務められ、再び、練学歯の会長に就任されました。私は監事として、練学歯の役員をしておりました。

望月先生、初めて、お会いした時から40年以上も経ったのですね。ここ数年、体調が悪いのは分かっては居ましたが、まさか、こんなに早く逝くとは思ってもありませんでした。先生を目標にして来た私としては、悲しくて、寂しくて、仕方がありません。

また、天国でお会いし、お酒を飲み、ゴルフができる日までお別れです。

どうぞ、安らかにお眠りください。



後列左より古田理事、石井専務、樋口理事、西理事、佐藤理事、浅見理事
前列左より中田監事、金澤副会長、草柳会長、名古屋副会長、渡辺監事

編集後記

昨年は全国各地で色々な予期せぬ大規模な自然災害が発生し被災された方々には謹んでお悔やみ申し上げます。

中でも台風19号では記事やニュースには全くなりませんでした。練馬でも旭町の一部で白子川が越水しそうになり約20人の方々が自主避難されたそうです。

練学歯の諸先生方も今一度自然災害への備えを再確認していただきたいと思います。

「練学歯だより」NO25をお届けすることが出来ました、お忙しい中、投稿を快くお引き受けいただいた諸先生には感謝申し上げます。また、ご指導、ご協力をいただいた練学歯理事及び練学歯学術委員会の先生方には深く御礼申し上げます。

来年もNO26を発行予定ですので、練馬区学校歯科医の先生方の御協力をよろしくお願いいたします。

佐藤和典

望月兵衛先生が他界されました、言葉になりません。

12月17日午前1時30分静脈瘤破裂、12月12日14日両日ともに先生と楽しい会話・お酒を酌み交わし、顔色も良く普段の「もっちゃん」でした。心から感謝の意を表します。

3年前西連寺先生を失い、望月先生をも亡くなられ、練学歯にとりまして大きな痛手です。練馬区学校歯科医会は、大きな業績を継続し、さらに飛躍を遂げる様まい進してゆきますので、安らかにお休み下さい。

草柳英二

練馬区学校歯科医会ホームページ
<http://www.nerigakushi.tokyo>

発行日 令和2年3月13日
発行 練馬区学校歯科医会
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6丁目5-13
TEL 3557-0045(代)
FAX 3557-3553

発行人 草柳英二
担当理事 佐藤和典

印刷所 有限会社かどや印刷
〒177-0042 東京都練馬区下石神井5-1-37
TEL 3997-0370
FAX 3995-0594

SUNSTAR

医療機関向

こだわりの深化

臼歯部の
みがきやすさ、
さらに実感!

新発売

バトラーハブラシ #025NEO(M)(ふつう)
#025NEO(S)(やわらかめ)

Point 1 狭く磨きにくい部位へもスムーズに届く薄さ2.5mm※1の超薄型ヘッド

Point 2 奥歯にもスムーズに到達する84mmのスリムロングネック

Point 3 菌の繁殖を防止する抗菌コート毛※2採用

Point 4 従来よりも長く、握りやすい六角形なのでペングリップでも
パームグリップでも持ちやすいハンドル設計



超極薄ヘッド

工業界最薄 2.5mm※1



#025NEO(M)(ふつう) ●毛の長さ/9mm ●毛の太さ/0.19mm
●患者様希望価格/1本300円(税抜価格)



#025NEO(S)(やわらかめ) ●毛の長さ/9mm ●毛の太さ/0.15mm
●患者様希望価格/1本300円(税抜価格)



商品についてのご質問・ご不明な点は
下記へお問い合わせください。

サンスター株式会社

〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3番1号
TEL/072-682-4733 FAX/072-684-5669

BUTLER

※1 歯科医院で販売するハブラシ内で最薄(2019年6月サンスター調べ)
※2 抗菌部位:毛 抗菌剤:クロルヘキシジン

◎登録商標 BUTLERは登録商標です。

患者さんにやさしい 使う人にやさしい

DOLPHIN DENTAL GLOVES

新発売

フリーダム・フォー

ドルフィンFD-IV ニトリル ディスポーザブルグローブ

加硫促進剤を含まないので、
化学物質によるアレルギー発生のリスクが
格段に低い、安全なグローブです

■サイズ:XS・S・M・L

■包装:100枚入・左右兼用・未滅菌

■届出番号:13B3X00551000273(一般)

■一般的名称:歯科用手袋

におい
なし

伸びが
良い

安全

軽い

重さはわずか 3.2g



製造販売元

株式会社 コサカ

KOSAKA DENTAL SUPPLY CO., LTD
〒176-0013 東京都練馬区豊玉中 2-18-14
TEL03-3557-4111 FAX03-3557-4116